学校番号	3001

令和５年度　環境緑化科

教科	農業	科目	造園計画	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書							
副教材等	「造園計画」「造園技術」　（文部科学省） 「造園施工必携」（日造連）「日本庭園の見方・楽しみ方」（家の光協会） 「五感で楽しむ樹木図鑑」（ナツメ社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

造園の計画と設計に必要な知識や技術を中心に環境の分野まで幅広く学習します。具体的には庭園史や庭園様式から樹木の特性やその利用方法まで多岐にわたり学びます。造園の計画や設計から環境問題までについて理解を深めて、造園や環境分野において実践的に活躍できる能力を身に付けましょう。

2　学習の到達目標

・造園分野に関する総合的な知識と技術を習得する。
・計画と設計についての理解を深め、計画力や管理能力などを身に付ける。
・造園に関する計画や設計など実践的な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	造園や環境分野に関する基本的な知識、技能を身に付け、緑化樹などの素材生産や、管理作業等を計画し、それらの知識や技能を適切に活用している。	造園や環境分野における専門知識や技能に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、課題を適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	造園や環境分野における専門知識や技能に関心をもち、それらの向上をめざして主体的に取組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 実習ノート レポート 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 実習ノート レポート 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 実習ノート レポート 定期考査の結果 自己評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	造園計画の意義と緑地環境の役割 環境と造園様式 演習実習	生活と緑地環境 造園計画と造園空間 我が国の環境と造園様式 石材 歩測 緑化樹など	a: 造園空間に関して理解し、造園空間の作成を行うために基本的な知識、技術を身に付け、その技術を活用している。 b:造園空間の知識や技能を活用し空間を創造する。また、計画、設計の課程に起こる諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c:造園空間の意義や意味、それに付随する知識や技能に関心を持ち、意欲的に学習に取組もうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 実習成果 ノート レポート	学習状況 自己評価
2学期	環境と造園様式 演習実習	外国の環境と造園様式 緑化樹の規格 生垣調査 樹高など	a: 造園空間に関して理解し、造園空間の作成を行うために基本的な知識、技術を身に付け、その技術を活用している。 b:造園空間の知識や技能を活用し空間を創造する。また、計画、設計の課程に起こる諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c:造園空間の意義や意味、それに付随する知識や技能に関心を持ち、意欲的に学習に取組もうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 実習成果 ノート レポート	学習状況 自己評価
3学期	環境と造園様式 演習実習	外国の環境と造園様式 冬芽 落葉 街路樹など	a: 造園空間に関して理解し、造園空間の作成を行うために基本的な知識、技術を身に付け、その技術を活用している。 b:造園空間の知識や技能を活用し空間を創造する。また、計画、設計の課程に起こる諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c:造園空間の意義や意味、それに付随する知識や技能に関心を持ち、意欲的に学習に取組もうとしている。	定期考査 ノート	定期考査 実習成果 ノート レポート	学習状況 自己評価

※表中の観点について　a:知識・技術　　b:思考・判断・表現
c:主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。